

県立高校の再編整備に関する意見を聴く会資料

1 高校教育の目的

学校教育法では、「高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、高等普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。」とされています。

また、将来の進路を選択し、社会に出る準備段階にあることから、義務教育段階に比べてより幅広く専門的な教育を行うことが求められます。

普通教育・・・一般的・基礎的な知識・技能を修得させ、人間として調和のとれた育成を目指すための教育

専門教育・・・専門的な知識・技能を修得させる教育（農業、水産、工業、商業等）

2 本県の現状

(1) 中学校卒業後の進路

(単位：人)

年次		卒業者 総数					
			高等学校等	専修学校等	公共職業能力 開発施設等	就職者	その他
H19.3	人数	9,453	9,191	21	22	84	135
	割合	(100.0)	(97.2)	(0.2)	(0.3)	(0.9)	(1.4)

(平成19年度 学校基本調査・速報)

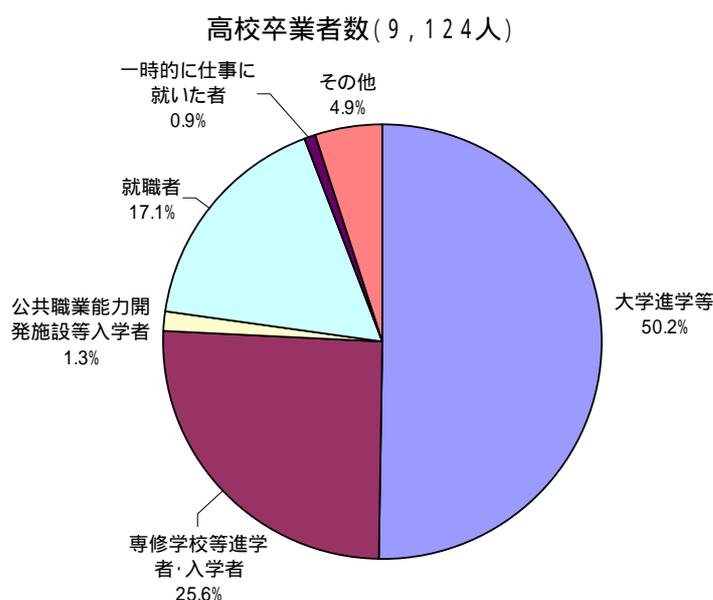
高等学校等：高等学校（全日制・定時制・通信制）、高等専門学校、特別支援学校

専修学校等：専修学校、各種学校

(2) 高校の在籍状況

本県には、現在、公立高校が35校、私立高校が10校あり、公立高校（全日制・定時制）には20,892人、私立高校には6,031人が学んでいます。(平成19年度学校基本調査・速報)

(3) 高校卒業後の進路



(平成19年度学校基本調査・速報)

3 本県における高校教育充実のための主な取組み

(1) きらめくかがわの高校づくり推進事業

- ・「特色ある高校づくりのための学校独自プラン」への重点的な支援
- ・教員の教科指導力を高めるための「かがわ教員道場」の開催
- ・県内すべての公私立高校及び高専が参加する高校合同説明会の開催

(2) いじめや中途退学等の解消に向けた取組み

- ・スクールカウンセラーの配置、家庭訪問指導への支援

(3) 国際理解教育の推進、就職指導の充実、情報教育の充実、教育環境の整備など

(4) 県立高校の再編整備

本県では、長期的な生徒減少期においても学校が活力に満ち、多様な教育を推進するため、これまで「県立高校の再編整備基本計画」に基づき、次のような学校の再編や学科の改編を実施しています。

(学校の再編)

平成 19 年 3 月 大川東高校が閉校

4 月 善通寺第一高校・善通寺西高校を統合

多度津工業高校・多度津水産高校を統合し、多度津高校が開校

(学科の改編)

平成 14 年度 高松南高校・飯山高校の衛生看護科を看護科（5 年一貫教育）に改編

17 年度 坂出商業高校に情報技術科を設置

19 年度 観音寺中央高校の普通科、商業科、食物科を総合学科に改編

22 年度 高松南高校に福祉科を設置（予定） など

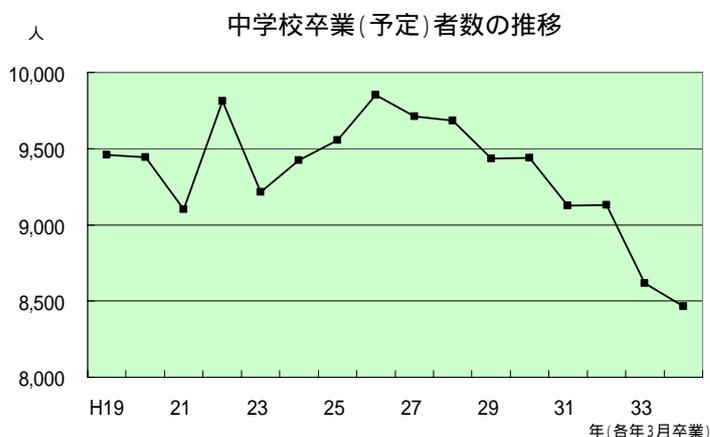
4 次期再編整備基本計画の策定にむけて

現在の計画は、平成22年度までの計画ですが、今後も、長期的な生徒減少期が続くことが見込まれるため、平成23年度以降10年間を見通した新たな再編整備計画を策定します。

(1) 生徒数の減少への対応

県内の中学校卒業生数は、平成23年以降は概ね9,500人前後で推移するものの、地域によっては生徒数が継続して減少します。

また、平成30年以降は県全体として、生徒数の減少が見込まれます。



小規模化の問題点

生徒の科目選択幅が狭くなる。
部活動を幅広く開設することが難しくなる。
生徒が切磋琢磨する機会が少なくなる。
学習環境を効果的に整備・活用できなくなる。

高校では、義務教育段階に比べて、より幅広く専門的な教育ができる環境が必要です。しかしながら、生徒の減少により、高校がそれぞれ小規模化していくと、右のような問題が生じ、学校の活力が失われる恐れがあります。

(2) 検討の視点

学校の活力の維持

さまざまな選択科目を開設したり、部活動を幅広く行うには、一定の学校規模が必要です。

今後、さらに生徒数が減少する中であっても、どの地域の生徒も同様に、充実して勉学に励むことができ、部活動をはじめ生き生きとした学校生活を送れるようにするため、全県的な視野に立って学校の再編を検討します。

社会の変化等への対応

少子高齢化、国際化、科学技術の発展など急激な社会の変化に対応するとともに、生徒の進路選択の幅を確保する観点から、今後の学科の改編を検討します。

(参考)

地域別中学校卒業(予定)者数の推移

年 (各年3月)	小豆地域		東かがわ・さぬき地域		高松地域		中讃地域		三豊・観音寺地域		全県	
	生徒数	指数	生徒数	指数	生徒数	指数	生徒数	指数	生徒数	指数	生徒数	指数
平成 19	340	(100.0)	787	(100.0)	4,246	(100.0)	2,756	(100.0)	1,324	(100.0)	9,453	(100.0)
32	212	(62.4)	663	(84.2)	4,501	(106.0)	2,707	(98.2)	1,048	(79.2)	9,131	(96.6)

指数:平成19年を100としたときの指数

平成19年は、平成19年度学校基本調査・速報

平成32年は、各市町教委調査(H19.4.1現在数)

6 公立高校全日制課程 学校・学科一覧（平成19年度）

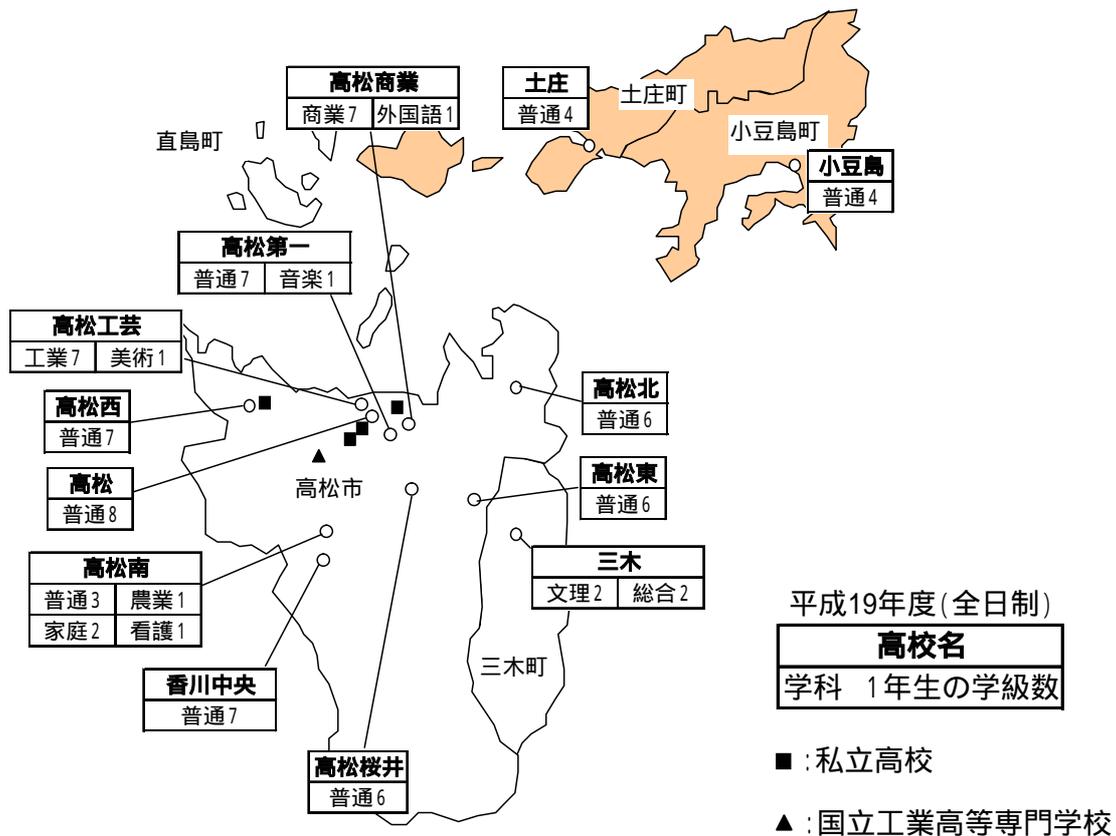
学 校	大学科	小学科・類型	1学年の定員	学 校	大学科	小学科・類型	1学年の定員		
小豆島	普通		124	農業経営	農業	農業生産	120		
土庄	普通		160			環境園芸			
三本松	普通		156			動物科学			
	理数	理数	35			食農科学			
石田	農業	生産経済	35	坂出商業	商業	商業	105		
		園芸デザイン	35			情報処理	30		
		農業土木	35	坂出	情報	情報技術	30		
家庭	家政	30	普通				240		
志度	工業	電子機械	35	坂出工業	工業	音楽	25		
		情報科学	35			機械	35		
津田	商業	商業	70			丸亀	普通	電気	35
		普通	140					化学工学	35
三木	文理	文理	70	飯山	総合	建築	35		
		総合	80			看護	35		
高松北	普通		240	丸亀城西	普通	看護	160		
高松	普通		320			総合	195		
高松工芸	工業	機械	40	善通寺第一	普通		200		
		電気	40			工業	デザイン	35	
		工業化学	40	琴平	普通			210	
		建築	40			多度津	工業	機械	35
		デザイン	30	電気	35				
		工芸	70	土木	35				
美術	25	建築	35						
高松商業	商業	商業	200	高瀬	普通	海洋技術	30		
		情報処理	70			水産	海洋生産	30	
	外国語	英語実務	40	笠田	農業			160	
高松東	普通		240			農産科学	30		
高松南	普通		120			植物科学	30		
		農業	環境科学			40	食品科学	30	
		家庭	家政	60	家庭	家政	30		
	看護	看護	35	観音寺第一	普通		280		
高松西	普通		280			理数	理数	35	
高松桜井	普通		240	観音寺中央	総合		200		
香川中央	普通		275			三豊工業	工業	機械	35
高松第一	普通		280	電気	35				
		音楽	音楽	30	電子			35	

7 学校別学科・学級数の推移（公立・全日制・第1学年）

	平成元年度		平成11年度		平成19年度	
	大学科	1年	大学科	1年	大学科	1年
小豆島	普	5	普	4	普	4
土庄	普・商	7	普・商	6	普	4
三本松	普・理	7	普・理	5	普・理	5
大川東	普・農	3	普・農	3		
石田	農・家	4	農・家	4	農・家	4
志度	商	7	工・商	5	工・商	4
津田	普・家	7	普	4	普	4
三木			文・総	4	文・総	4
高松	普	12	普	10	普	8
高松工芸	工・美	14	工・美	10	工・美	8
高松商業	商・外	12	商・外	10	商・外	8
高松東	普・家・普(分)	13	普	8	普	6
高松南	普・農・家・厚	15	普・農・家・厚	11	普・農・家・看	7
高松西	普	11	普	9	普	7
高松北	普	13	普	10	普	6
香川中央	普	12	普	10	普	7
高松桜井			普	7	普	6
農業経営	農	4	農	4	農	4
坂出商業	商	8	商	5	商・情	5
坂出	普・音	11	普・音	10	普・音	7
坂出工業	工	7	工	5	工	4
丸亀	普	10	普	9	普	7
飯山	普・農・厚	8	厚・総	5	看・総	5
丸亀城西	商	7	普・商	7	普	5
善通寺第一	普	9	普	7	普・工	6
善通寺西	工・家	3	工・家	3		
琴平	普	7	普	7	普	6
多度津工業	工	9	工	5		
多度津水産	水	4	水	3		
多度津					工・水	6
笠田	農・家	4	農・家	4	農・家	4
高瀬	普	8	普	7	普	4
観音寺第一	普・理	10	普・理	9	普・理	8
観音寺中央	商・家	8	普・商・家	6	総	5
三豊工業	工	5	工	4	工	3
高松第一	普・音	13	普・音	10	普・音	8
		277		230		179

8 地域の状況

【小豆地域】



(1) 特徴

学校

県立高校が2校、いずれも普通科である。

私立高校がない。

交通・通学

島内の公共交通機関は路線バス

高松方面へは、3つの港からフェリー(約60分)、2つの港から高速艇(30~40分)

生徒の移動

中学校卒業生の約5%が島外の公立高校へ進学している。

島外からの進学はほとんどない。

(2) 中学校卒業生数の推移

平成19年

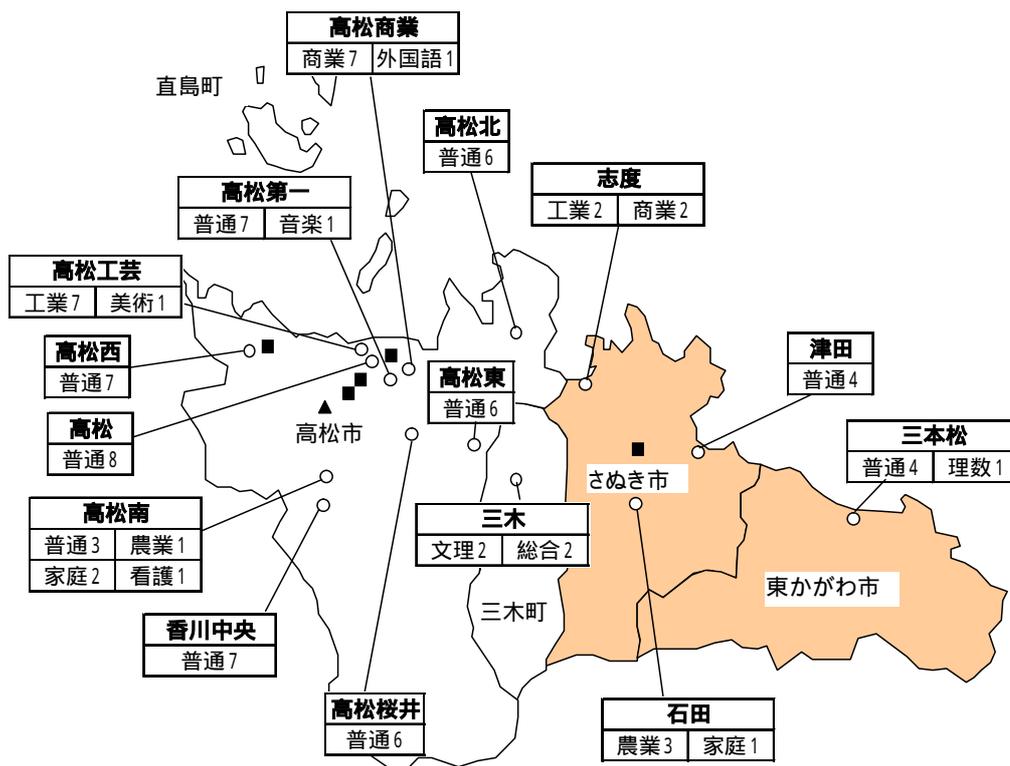
340人

平成32年(見込み)

212人(128)

(62%)

【東かがわ・さぬき地域】



(1) 特徴

学校

県立高校が 4 校ある。

私立高校は、藤井学園寒川高校（普通科・衛生看護科）がある。

交通・通学

主な公共交通機関として、海岸部は J R 高徳線、長尾高松間はことでんがある。

他地域に比べ、J R 通学の割合が多い

生徒の移動（平成 1 9 年度）

高松地域の公立高校へ 1 8 4 名が進学

高松地域からこの地域の公立高校へ 1 6 6 名が進学

(2) 中学校卒業生数の推移

平成 1 9 年

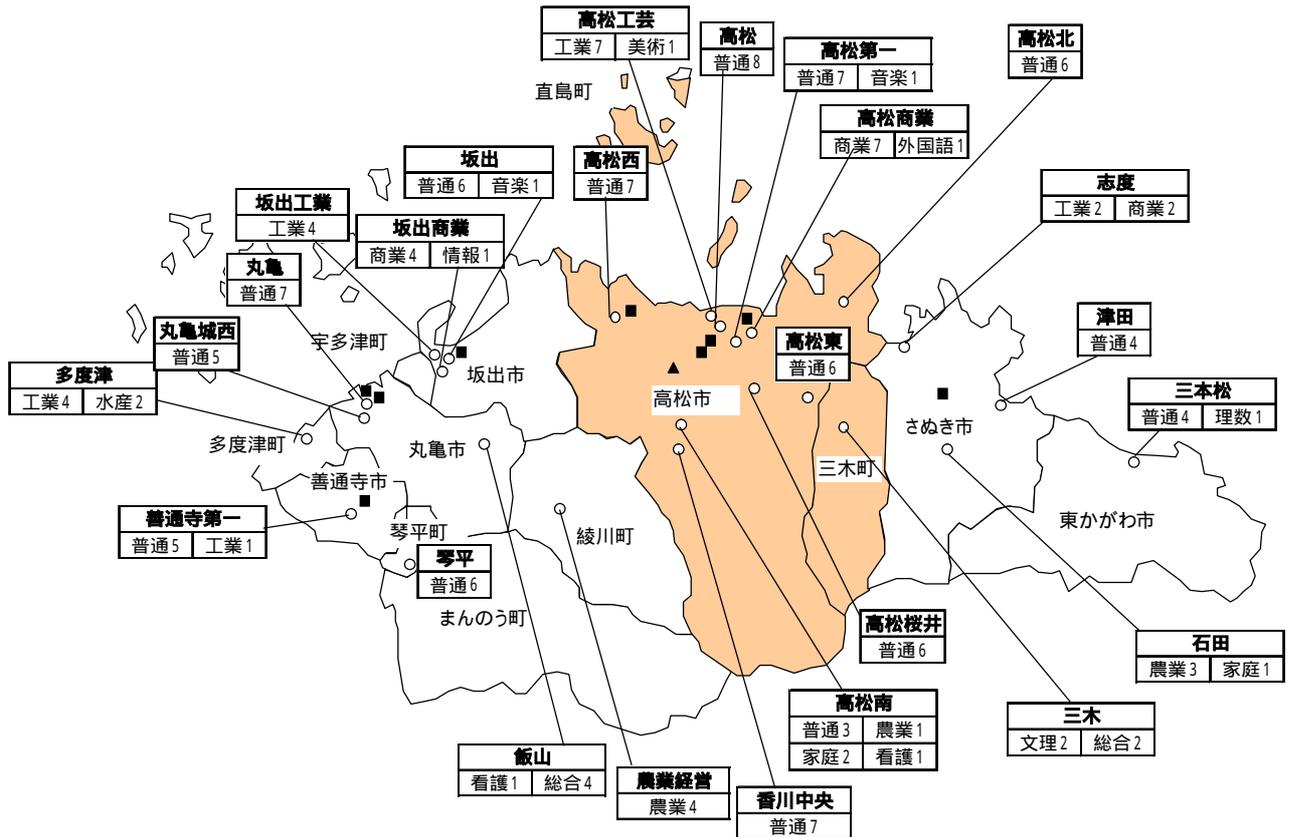
7 8 7 人

平成 3 2 年（見込み）

6 6 3 人（ 1 2 4 ）

（ 8 4 % ）

【高松地域】



(1) 特徴

学校

公立高校は、県立高校10校、市立高校1校(高松第一高校)の11校がある。
 私立高校は、高松中央高校(普通科、商業科)、英明高校(普通科)、大手前高松高校(普通科)、香川誠陵高校(普通科)の4校がある。
 高松工業高等専門学校がある。

交通・通学

JR、ことでん、路線バスなど、公共交通機関の便がよい。

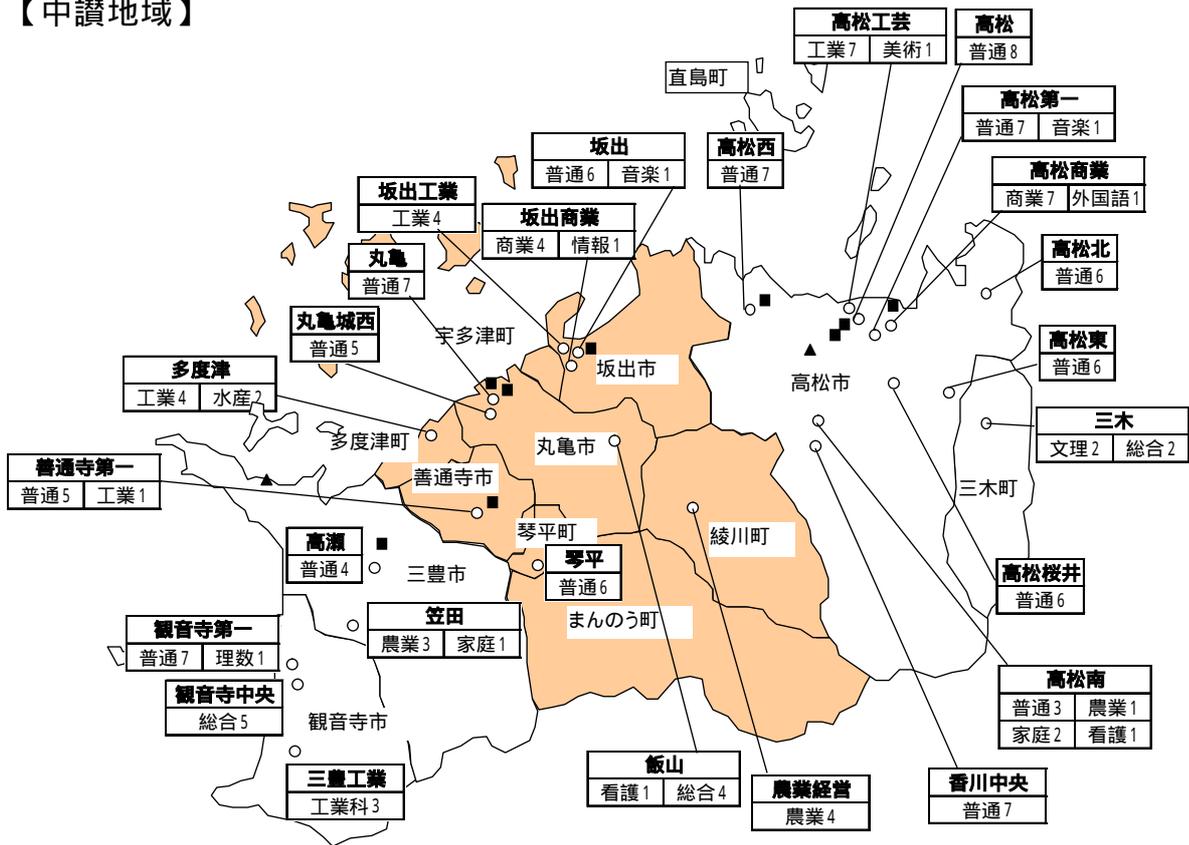
生徒の移動(平成19年度)

東かがわ・さぬき地域の公立高校へ166名が進学、東かがわ・さぬき地域からこの地域の公立高校へ184名が進学
 中讃地域の公立高校へ154名が進学、中讃地域からこの地域の公立高校へ193名が進学

(2) 中学校卒業生数の推移

平成19年	平成32年(見込み)
4,246人	4,501人(255)
	(106%)

【中讃地域】



(1) 特徴

学校

平成 19 年度に善通寺地区と多度津地区で高校の統合が行われ、現在、生徒募集をしている県立高校は 10 校である。

私立高校は、坂出第一高校（普通科、ファッションデザイン科、食物科）、大手前高校（普通科）、藤井高校（普通科・商業科）、尽誠学園高校（普通科・商業科・衛生看護科・福祉科）の 4 校がある。

交通・通学

主な公共交通機関は、JR 予讃線・土讃線、琴平高松間はことんでである。

生徒の移動（平成 19 年度）

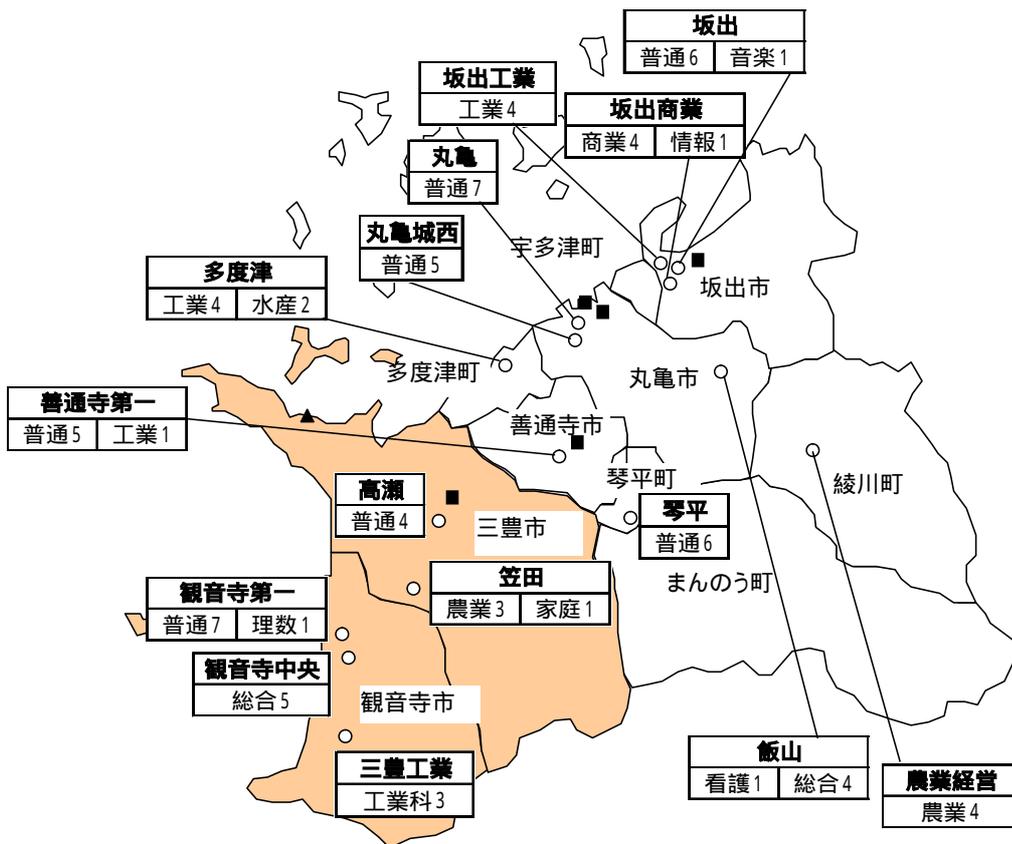
高松地域の公立高校へ 193 名が進学、高松地域からこの地域の公立高校へ 154 名が進学

三豊・観音寺地域の公立高校へ 25 名が進学、三豊・観音寺地域からこの地域の公立高校へ 170 名が進学

(2) 中学校卒業生数の推移

平成 19 年	平成 32 年（見込み）
2,756 人	2,707 人（49）
	（98%）

【三豊・観音寺地域】



(1) 特徴

学校

県立高校が5校ある。

私立高校は、香川西高校（普通科・商業科・衛生看護科）がある。

詫間電波工業高等専門学校がある。

交通・通学

主な公共交通機関は、JR予讃線である。

生徒の移動（平成19年度）

中讃地域の公立高校へ170名が進学

中讃地域からこの地域の公立高校へ25名が進学

(2) 中学校卒業生数の推移

平成19年

1,324人

平成32年（見込み）

1,048人（276）

（79%）